

憂楽帳

コロナ下の女性外来で

オピニオン | 夕刊社会

毎日新聞 | 2022/9/22 東京夕刊 有料記事 461文字



産婦人科医の対馬ルリ子さん（左）＝本人提供

東京・銀座の女性総合外来。産婦人科医の対馬ルリ子さん（64）は患者に語りかけた。「あなたは悪くない」。初めて新型コロナの緊急事態宣言が発令された2020年4月から、一時的に避難が必要な人たちのためにクリニックの病室を「シェルター」として開放している。

当時、外出自粛で女性や子供への暴力が深刻化するリスクが懸念されていた。対馬さんは、人出が減った繁華街で空きビルに連れ込まれて性被害に遭ったり、在宅時間が長くなった夫から暴力を受けたりした患者らと向き合ってきた。

連携する仲間を増やそうと20年8月、一般財団法人「日本女性財団」（東京都）を設立した。困窮した人たちが費用の心配をせずに相談できるようクラウドファンディングでカウンセリングや検査費用、薬代などをまかなう。

シェルター開設から間もなく2年半。対馬さんは実感を込めて語る。「コロナの影響が長引き、女性を取り巻く問題は悪化しています。一人でも多くを救える体制をつくりたい」。財団は資金を募りながら活動を続け、連携する医師や団体の輪を全国に広げつつある。【福島祥】

毎日新聞のニュースサイトに掲載の記事・写真・図表など無断転載を禁止します。著作権は毎日新聞社またはその情報提供者に属します。

画像データは（株）フォーカスシステムズの電子透かし「acuagraphy」により著作権情報を確認できるようになっています。

Copyright THE MAINICHI NEWSPAPERS. All rights reserved.